

医療関連

01



代表取締役  
杉原行里

浜通り復興に  
向けたメッセージ

超高齢化社会の到来を見据え、課題先進都市として浜通り地域をモデルに課題解決に取り組んでまいります。



IoTロボットによる身体データの計測及び解析、それに伴う独自データプラットフォームの構築



# 車椅子シーティング課題を解決するツールとデータベース化の実用化に挑む

実証実験中の車いす用シーティングシミュレータロボットと車いすのIoT化した普及版と、測定データをはじめ幅広いIoT測定デバイスから健康情報を収集、統合管理して解析を行うデータプラットフォームを開発します。

開発背景

世界的な超高齢化で車椅子の必要性は増加するが、車椅子を個人の身体へ調整は個人の技量に依っており、大きな差があります。国内有数の高齢化をもつ浜通り地域をモデルとし車椅子シーティングを包括的に提供する実用システムを確立します。

実用化開発の目標

実用化時期	令和5年度(2023年度)
販売製品・サービス名	設定可変車椅子「MIGRA」、車椅子シミュレータ「bespo」、クラウドデータベース「welgraph」
成果物(最終年度)	医療機関での「MIGRA」、「bespo」の実証実験の実施と、データプラットフォームとの統合テスト
創出される経済効果	車椅子ユーザの運動量向上による健康増進での医療費負担の軽減。製造拠点整備による地元企業の売上拡大。

開発のポイント

要素技術	臨床現場で実用できる車椅子シーティングツールとしての機能確立。データベースとハードウェアの連携。
開発のポイント	個人の経験に大きく依存する車椅子シーティングを定量化、幅広くデータとして活用することで、車椅子ユーザのQOL向上を実現できます。

実施期間	2021~2022年
実用化開発場所	埼玉県大里郡寄居町、いわき市
連携自治体	-

浜通り地域への経済波及効果

- ・拠点立地件数1件(いわき市)
- ・試作品製作について地元企業1社と調整中
- ・市場調査を地元企業に委託。量産化を見据え地元企業1社と協議中
- ・市場調査について地元企業1社と調整中

これまでに得られた成果

- ・データベースとして複数の事業者からのデータ提供・供給を可能にするAPIゲートウェイ
- ・医療、福祉施設での実用可能なシーティング技術、センサーの実装
- ・メディア：WOWOW「WHO I AM」、TBS「ニュース23」ほか

## 株式会社RDS

福島県いわき市平字長橋町15-1  
☎ 048-582-3911(担当：中村耕太)  
✉ k.nakamura@rds-design.jp

投資規模	5~10億円
開発人数	10~29名
販売時期	令和5年度(2021年度)
販売形態	「MIGRA」、「bespo」として製品販売。ヘルスデータシステムとしてデータ提供時に販売します。
販売見込先	医療機関ほか、障害者福祉施設等3件。
協業希望先	・MIGRAの実験にご協力いただける医療機関等

